

A Transdisciplinary Approach by Using Hybrid Input-Output Analysis to Evaluate Economic Impact on Local Economy

著者	JONGDEEPAISAL Cholapat
year	2018-03
学位授与機関	高知工科大学
学位授与番号	26402甲第321号
URL	http://hdl.handle.net/10173/1868

氏名(本籍)	Cholapat Jongdeepaisal (タイ)		
学位の種類	博士(学術)		
学位記番号	甲第321号		
学位授与年月日	平成30年3月19日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項		
研究科・専攻名	工学研究科・基盤工学専攻		
学位論文題目	A Transdisciplinary Approach by Using Hybrid Input-Output Analysis to Evaluate Economic Impact of Local Economy		
論文審査	(主査) 高知工科大学 香川大学 高知工科大学 高知工科大学 高知工科大学	教授 名誉教授 教授 教授 教授	那須 清吾 井原 健雄 桂 信太郎 中根 英昭 古沢 浩

審査結果の要旨

1.論文の評価

ハイブリッド産業連関分析は、環境工学分野において着目する産業活動により生じる物理量としてのインパクトを評価する為に開発された。本研究では、例えば新しい産業、新しい工業団地を開発した場合のインパクト評価を、従来の物理量だけではなく、金額により評価することを目的としている。従来の産業連関分析と異なる点は、新しい産業構造をモデル化して、新旧の産業構造との相互作用で分析すること、旧の産業構造からカットオフした経営資源は、物理量と金額で表現されることから、価格政策などの評価などの可能性もある。

本研究では、高知県の木質バイオマス発電事業を分析対象とし、資源価格、算出物としての電力価格の政策的決定が及ぼす政策評価が出来ることを示し、ハイブリッド産業連関表として初めて、産出量効果を産業毎に試算している。また、新の産業構造が大きい場合、旧の産業構造に与える影響が大きいことを考慮した旧の産業構造の資源再配分の効果を初めて考慮した。更に、本手法の応用として、災害発生後の建設産業を新の産業構造としてモデル化し、従来の産業連関分析では金額ベースであった為に出来なかった、建設産業における復旧段階の産業構造の違いを解析している。

今後、環境工学分野に限定されてきたハイブリッド産業連関分析を工業団地等の開発効果を多様な視点で分析する分野を切り開いたと考えられ、高く評価出来る。

2.審査の経過と結果

- (1) 平成30年1月10日 博士後期課程委員会で学位論文の受理を決定し、5名がその審査委員として指名された。
- (2) 平成30年2月17日 公開論文審査発表会及び最終試験を実施した。
- (3) 平成30年3月6日 博士後期課程委員会で学位授与を可とし、教育研究審議会で承認された。